

防災気象情報の改善に伴う 気象防災速報の運用と伝え方について (気象防災速報をより活用するために)

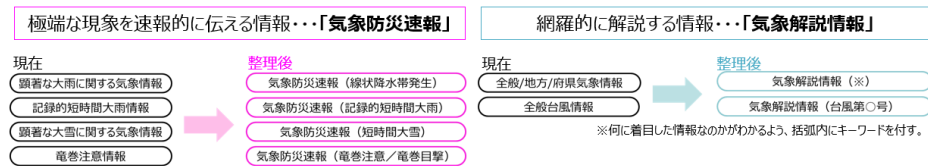
(補足)

- R8から運用を開始する防災速報の種類や運用を説明します。この資料に掲載以外の気象防災速報については、令和8年度からの運用予定はありません。気象防災速報の拡充については、将来的に運用を開始する際には十分に期間をとり、説明する予定です。
- 気象庁HPの気象庁防災情報XMLフォーマット技術資料の中で、電文毎の解説資料を掲載しております。これまで気象防災速報について利用予定者の問い合わせが多いものを中心に補足説明することを目的としておりますので、厳密な仕様等は解説資料を参照いただくようよろしくお願いいたします。

気象情報（解説情報）の体系整理

◎ 情報の性質を把握できるように分類して提供

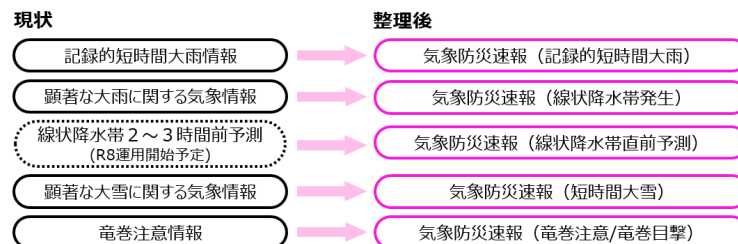
- ▶ これまでいくつかの種類の「気象情報」として伝えていた情報は、線状降水帯をはじめとした具体的な極端現象が発生または発生しつつある場合にその旨を伝える「**極端な現象を速報的に伝える情報**」と、現在及び今後の気象状況等を網羅的に伝える「**網羅的に解説する情報**」に分類して提供。
- ▶ それぞれの区別がつかう統一的な情報名称とし、「線状降水帯」などのキーワードを付すことにより情報へのアクセスを改善。



【気象防災速報】

警戒レベル相当情報やそれ以外の警報等の「対応や行動が必要な状況であることを伝える簡潔な情報」を補足するものとしてその根拠を示して解説する、速報性の高い情報。

- ✓ 気象防災速報は、発生している極端現象に係る実況を伝えることを基本とする。
- ✓ 警報の対象にはなっていないが、予測が困難で発生した場合には相当の被害をもたらす現象（竜巻）についても、気象防災速報として発表する。



【気象防災速報】

- ・ 極端な現象が発生または発生しつつあることを**速報的に伝える**（気象）情報。
- ・ 「対応や行動が必要な状況であることを伝える簡潔な情報」を補足して**その根拠を示して解説**する。
- ・ (根拠となる) **実況を伝えることを基本**とする。



- ・ 固有のキーワードにより、どのような現象による情報で一目でわかる
- ・ 速報性を重視することから、解説する内容（見出しの平文）は簡潔に記述する。
- ・ 原則としてキーワード、見出しのみの簡潔な情報であるがゆえ、
 - ① 固有に付加されるキーワードの現象とは何か（例：線状降水帯“直前”って何？）
 - ② 気象庁がどのような状況のときに、どのような呼びかけをしたくて、どのキーワードの情報を発表するか
 - ③ XML電文として、どう表現されるか、どう解説されるか
 - ④ 電文が発表された場合には、どのような防災行動が必要なのか
 ……等を平時から事前に理解しておく、**防災速報を最大限に活用が可能になる。**
 （簡易な情報を“読む”だけでは、伝わらない場合もありうる）

令和8年出水期から運用する気象防災速報について

気象解説情報形式_解説資料_別表類.xlsx (一部抜粋)

状況 (Condition)	気象防災速報・解説情報が対象とする情報内容	対象となりうる電文									
		気象防災速報		気象解説情報 (一般)			気象解説情報 (潮位)				
		一般	潮位	全般	地方	府県	全般	地方	府県		
線状降水帯発生 ①	顕著な大雨に関する気象情報	○									
線状降水帯直前 ②	線状降水帯直前予測	○									
線状降水帯予測	線状降水帯予測に関する気象情報			○	○	○					
記録雨 ③	記録的短時間大雨情報	○									
短時間大雪 ④	顕著な大雪に関する気象情報	○									
大雨	大雨に関する気象情報	○		○	○	○					
洪水	洪水に関する気象情報	○		○	○	○					
大雪	大雪に関する気象情報	○		○	○	○					
雪	雪(警報・注意報に達しない見込み)に関する気象情報			○	○	○					
暴風	暴風(雪を伴わない場合)に関する気象情報	○		○	○	○					
暴風雪	暴風雪に関する気象情報	○		○	○	○					
強風	強風(暴風でなく、雪を伴わない場合)に関する気象情報			○	○	○					
風雪	風雪(暴風でない場合)に関する気象情報			○	○	○					
高波	高波に関する気象情報			○	○	○					
高潮	高潮に関する気象情報	○		○	○	○					
落雷	落雷に関する気象情報			○	○	○					
突風	突風に関する気象情報			○	○	○					
降ひょう	降ひょうに関する気象情報			○	○	○					
低温	低温に関する気象情報			○	○	○					
高温	高温に関する気象情報			○	○	○					
融雪	融雪に関する気象情報			○	○	○					
なだれ	なだれに関する気象情報			○	○	○					
黄砂	黄砂に関する気象情報			○	○	○					
霜	霜(強い霜を含む)に関する気象情報			○	○	○					
強い寒気	強い寒気に関する気象情報			○	○	○					
強い冬型	強い冬型の気圧配置に関する気象情報			○	○	○					
発達する低気圧	発達する低気圧に関する気象情報			○	○	○					
台風	台風に関する気象情報	○		○	○	○					
発達する熱低	発達する熱帯低気圧に関する気象情報			○	○	○					
元台風の低気圧	台風から変わった温帯低気圧又は熱帯低気圧に関する情報	○		○	○	○					
大潮	大潮による高い潮位に関する潮位情報						○	○	○		
高い潮位	高い潮位に関する潮位情報			○	○	○	○	○	○		
副振動	副振動に関する潮位情報		×				○	○	○		
異常潮位	異常潮位に関する潮位情報						○	○	○		

R8から

気象防災速報 (VPBS50) で運用を始める要素は①～④の4種です。

それぞれ表題は

- ①気象防災速報 (線状降水帯発生)
- ②気象防災速報 (線状降水帯直前予測)
- ③気象防災速報 (記録的短時間大雨)
- ④気象防災速報 (短時間大雪)

として、発表することとしており、

この4種ではConditionを1つもちます (複数とりません)

このほかに従来の竜巻注意情報 (VPHW50、VPHW51)を内容を一部変更 (ヘッダ部の表題のみ変更) し、気象防災速報として取り扱う
⑤気象防災速報 (竜巻注意/竜巻目撃) の計5種になります。

※本表は気象解説情報形式として業務の拡充・変更等により、事前周知の上で随時更新する可能性があることから、本表の内容の加除等に際して簡易に対応かつ処理異常とならないようにすること。本表は気象解説情報形式のみを対象としており、竜巻注意情報等他の形式の運用について記載していない。表中の「×」印は当該電文での利用をとりやめるもの。

※①～④以外は、今後において気象防災速報として扱う可能性を想定して「気象解説情報形式_解説資料_別表類.xlsx」に掲載しているところ。気象防災速報の拡充については、将来的に運用を開始する際には十分に期間をとって振興協議会等をおし説明する予定です (サンプル電文等もその際に拡充します)。

令和8年出水期から運用する気象防災速報で伝える内容等について

表題のキーワード	電文	伝える内容	伝える対象
線状降水帯発生	VPBS50	現象の発生（地域）	新規および継続している現象を記載
線状降水帯直前予測	VPBS50	現象の予測（地域）	3時間以内に予測する現象を記載
記録的短時間大雨	VPBS50	観測値（点情報） 解析値（地域）	新規に該当する観測値等を記載
短時間大雪	VPBS50	観測値（点情報）	新規に該当する観測値等を記載
竜巻注意/竜巻目撃	VPHW50/51	現象の発生（地域） 現象の予測（地域）	有効期間内の現象を全て記載

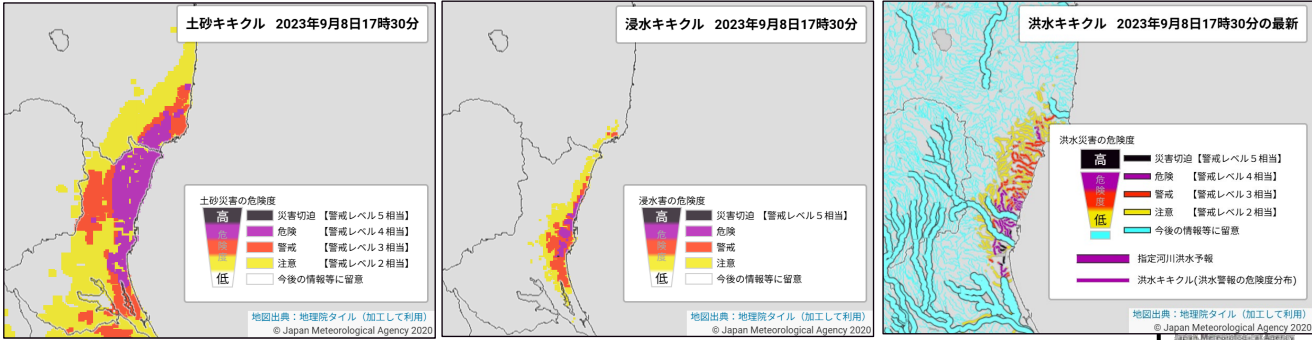
2023年9月8日の事例

↓ 顕著な大雨に関する気象情報の発表例
 (上段：情報文、下段：気象庁ホームページ「今後の雨」の表示)

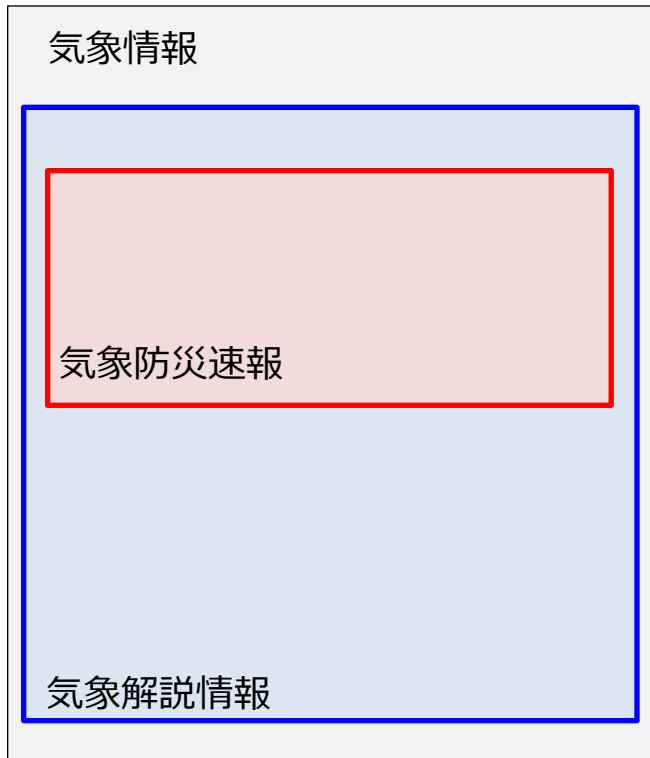
顕著な大雨に関する茨城県気象情報 第1号
 2023年09月08日17時39分 水戸地方気象台発表

茨城県北部、南部では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。

「気象防災速報（線状降水帯発生）」を発表した場合、雨雲（レーダー）、土砂キキクル、浸水キキクル、洪水キキクル等事前に該当情報が発生する場合の基準等を知っておくと、該当情報が発表された場合に最大限に活用できます。



気象情報（解説情報、防災速報）の電文について



新体系では、機械可読性を高めて提供してまいります。

- ・気象庁防災情報XMLフォーマット 技術資料
「気象解説情報形式_解説資料.pdf」
「気象解説情報形式_解説資料_別表類.xlsx」

に記載しているとおり、

- ・気象解説情報 VP(Z/C/F)J51
- ・気象防災速報 VPBS50

は、機械可読性を考え、電文構成を同一にしています。

「別紙_気象防災速報の電文構造.xlsx」において
運用中の各気象防災速報をまとめていますので活用ください。

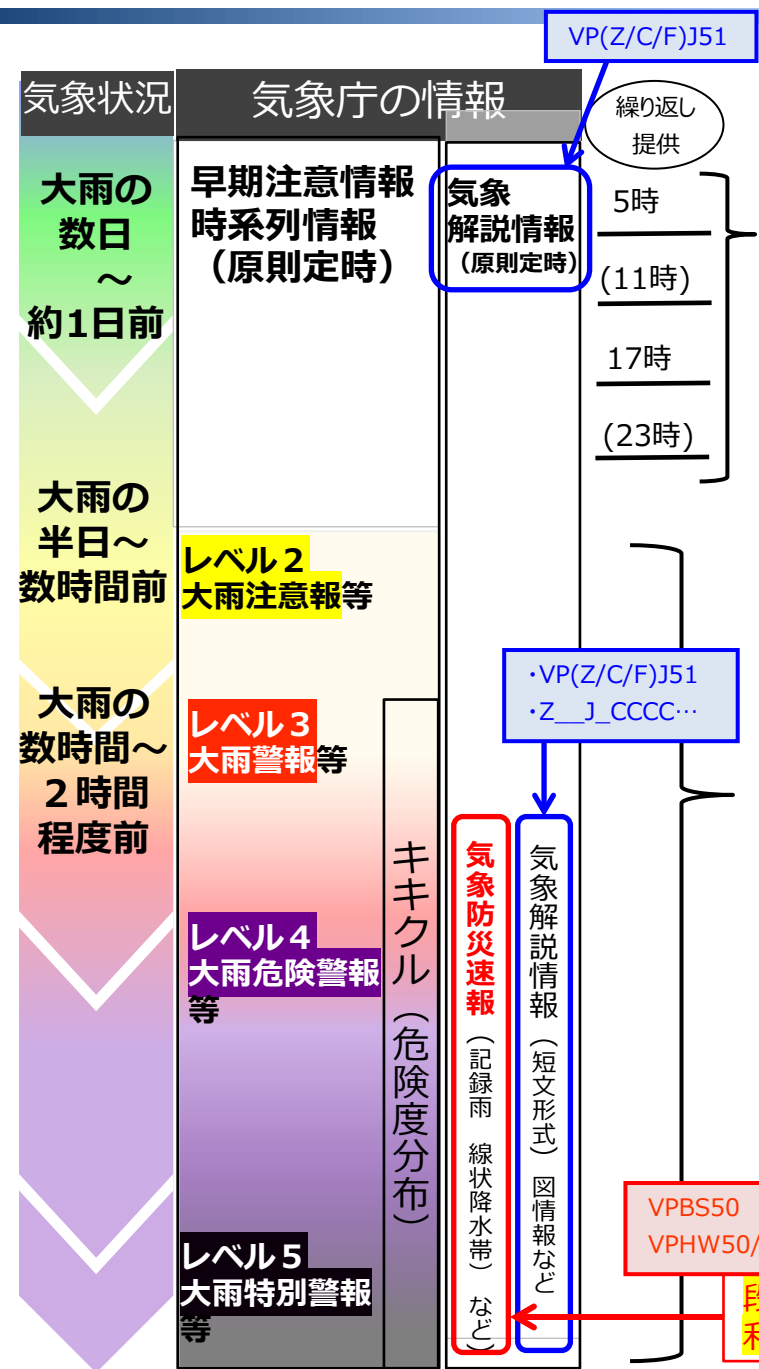
【気象防災速報を有効（最大限に活用）に利用いただくためには】

- ・気象防災速報では、キーワードによって呼びかけている現象等が異なります。
- ・上記のとおり、機械可読性の高い、気象庁防災情報XMLフォーマットで提供することから、見出し（平文）で呼びかける対象地域は、防災速報で利用する細分区域コードが示す地域に含まれますが、見出しでは更に細分した地域を記述することがあります。

⇒ システム処理：あくまでもXML電文のコードを利用を想定

⇒ 人が利用：平文の内容を読み取る

警報、解説情報、防災速報等を一体的に活用いただくイメージ



【日頃から、発生中も含めて、活用いただく情報】

早期注意情報 (5,11,17時形式で発表)
(警報級の現象発生等の可能性を伝える)

00地域	0日	0日	0日	0日	0日	0日	0日	0日		
警報級の	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24	00-12	12-24	0日	0日	0日
大雨	-	[中]	[中]	[中]	-	-	-	-	-	-
土砂災害	-	[中]	[中]	[中]	-	-	-	-	-	-

時系列情報 (5,11,17,23時形式で発表)
(最も起こりうる気象の見通しを色分けでわかりやすく)

〇〇市	〇時〇〇日〇時〇〇分発表									
	18-21	21-24	00-03	03-06	06-09	09-12	12-15	15-18	18-21	21-24
大雨										
土砂災害										
暴風(m/s)										

※予報官コメント、あな町、防災メールほか多様な手段も活用)

PULL情報
充実

日頃から、気象シナリオをわかりやすく伝えていく。
⇒ 自治体や住民の方が予め準備することができる。

【直接の行動に役立てていただくための情報】

- 原則定時に発表・更新される気象の見通し情報等をもとに、直近の実況経過や見通しの変化に応じて(修正し)、随時に段階的に警報等を発表していく。
- 当初お伝えできなかった現象等が発生した場合には、防災速報や解説情報など様々な手段を通してお伝えしていく。
- これらをご参照いただき、避難等の行動に役立てていただく

PUSH情報
わかりやすく

気象防災速報が発表されるタイミング (イメージ)
段階的に発表される警報、常時提供するキキクル等と併用いただく想定。
利用用途等が明確になったものから、気象防災速報の専用電文で運用。

気象防災速報（記録的短時間大雨） の運用や変更について

気象防災速報（キーワード：記録的短時間大雨）について

数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測（地上の雨量計による観測）したり、解析（気象レーダーと地上の雨量計を組み合わせた分析：解析雨量）したりしたときに発表します。この情報は、**現在の降雨がその地域にとって土砂災害や浸水害、中小河川の洪水災害の発生につながるような、稀にしか観測しない雨量であることをお知らせするために、雨量基準を満たし、かつ、レベル3大雨警報等を発表中に、キキクル（危険度分布）の「危険」（紫）が出現している場合に発表するもので、大雨を観測した観測点名や市町村等を明記しています。**

見出し：ヘッド部テキスト（Headline/Text） ※ 速報的に伝える、人が読むことを前提にした呼びかけを記載

13時10分、北海道美幌町で記録的短時間大雨。 美幌町付近で1時間に約100ミリ。美幌で1時間に93ミリ。猛烈な雨が降っており、災害発生危険度が急激に高まっています。

赤：いつ・どこで・何が
青：根拠となる実況
紫：簡潔な解説

R8から
二次細分地域の表現に統一
(〇〇県+二次細分で…)

- ・気象防災速報（記録的短時間大雨）の見出し（平文）
人が読むことを前提に警報の発表地域（二次細分）で呼びかける。
 - 平文に記載する地域に、実際に降っているという情報である。
この二次細分（付近）の人は、すぐに確認いただきたい。
 - この二次細分を含めた地域にいる方（情報が対象とするエリア）も、記録雨の発表基準には達しなくとも大雨となっている可能性がある。
府県予報区への大雨に関する情報として確認いただきたい。

事前に知っておくと、より活用できる！

- 「記録的短時間大雨」が発表されたときには
 - ・ **レベル3大雨警報**もしくは**レベル3土砂災害警報**以上の相当情報が発表中。
 - ・ 同二次細分区内に**キキクル紫（危険）**が出現している。
- とっていただきたい行動
 - ・ 災害の危険度が一部ではレベル4相当まで急激に高まって、実際に災害が起こっている可能性がある。
 - ・ そのため、キキクル等のPULL情報を利用して、実際にどこで災害発生危険度が「紫（危険）」に高まっているかを確認するとともに、自治体からの避難情報も確認してください。
周りの状況を確認し、避難場所への避難ができて危険な場合は、少しでも崖や沢から離れた建物や少しでも浸水しにくい高い場所に移動するなど、身の安全を確保して下さい。

情報の示す地域：ヘッド部エリア（Headline/Areas）

```
<Areas codeType="気象情報/府県予報区・細分区域等">  
  <Area>  
    <Name>網走地方</Name>  
    <Code>013010</Code>  
  </Area>  
</Areas>
```

- ※ 平文の呼びかける地域に該当するコード（二次細分区域）ではなく、その地域を含んだNameやCode（一次細分区域等）が提供されます。
府県気象解説情報と電文発表単位は同様ですが「一次細分区域等」へ絞こみます。

観測値等：ボディ部の気象情報（Body/Meteorologicalinfo）

```
<Body xmlns="http://xml.kishou.go.jp/maxml1/body/meteorology1/" xmlns:jmx="http://xml.kishou.go.jp/maxml1/elementBasis1/">  
  <MeteorologicalInfo type="観測実況">  
    <Item>  
      <Property>  
        <Type>雨の実況</Type>  
        <PrecipitationPart>  
          <jmx:eb:Precipitation description="約100ミリ" type="前1時間解析雨量" unit="mm" condition="約">100</jmx:eb:Precipitation>  
          <Time>2023-07-13T13:29:26+09:00</Time>  
        </PrecipitationPart>  
      </Property>  
      <Area codeType="気象・地震・火山情報/市町村等">  
        <Name>美幌町</Name>  
        <Code>0154300</Code>  
        <Status>付近</Status>  
      </Area>  
    </Item>  
    <Item>  
      <Property>  
        <Type>雨の実況</Type>  
        <PrecipitationPart>  
          <jmx:eb:Precipitation description="93ミリ" type="前1時間降水量" unit="mm">93</jmx:eb:Precipitation>  
          <Time>2023-07-13T13:10:00+09:00</Time>  
        </PrecipitationPart>  
      </Property>  
      <Station>  
        <Name>美幌</Name>  
        <Code type="アメダス地点番号">17631</Code>  
        <Location>北海道</Location>  
      </Station>  
    </Item>
```

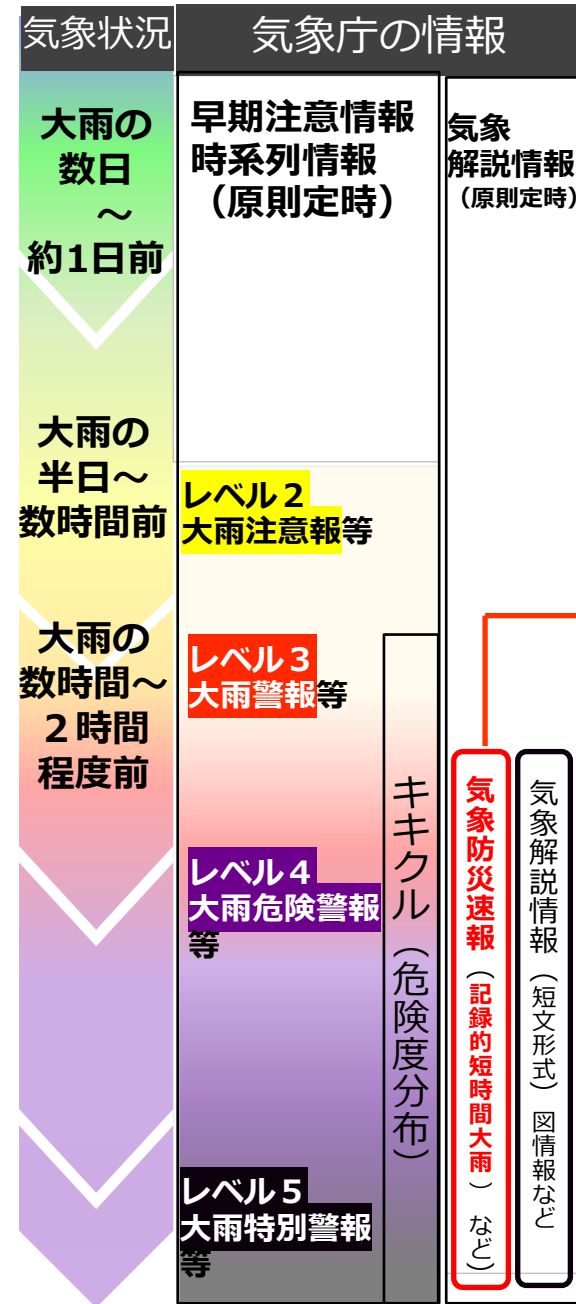
※ 解析雨量で解析された場合は、その地域（平文に記載される二次細分区域）を提供

※ 雨量計の観測の場合は、その地点（地点番号）を提供。
地点番号と緯度経度や二次細分区域コードの対応表は気象庁、気象庁外の観測値ともに別に提供しております。

XML電文の詳しい構造は「別紙 気象防災速報の電文構造.xlsx」を参照

気象防災速報（記録的短時間大雨）の発表まで（イメージ図）

気象防災速報（記録的短時間大雨）の詳細は、以下のページで確認できます
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/kirokuame.html>



【気象庁での危機感の伝え方】
 記録的な短時間の大雨を実際に観測もしくは解析し、キキクルでレベル4相当（もしくはそれ以上）になっているときに発表する情報です。猛烈な雨によって、災害発生危険度が急激に高まっていることを意味しており、そのような危機感をもって、厳重に警戒を呼びかけることが多いです。

気象防災速報（記録的短時間大雨）は、警報やキキクル等で警戒を呼び掛けている中で、**猛烈な雨によって災害発生危険度がレベル4以上に急激に高まり、実際に災害が起こっている可能性が高いことから、さらに強く警戒を呼び掛ける必要があるときに発表する情報**である。

- 【発表基準】
- 各格子で定める**1時間雨量**の基準を、雨量計で観測もしくは解析雨量で解析されること
 - レベル3大雨警報**もしくは**レベル3土砂災害警報**以上が発表されていること
 - 同二次細分区内に**キキクル紫（危険）**が出現していること

上記を発表後に、**さらに強く警戒を呼び掛ける必要が生じたときに再度発表**する。

- 【第2号以降の発表基準】
- 同二次細分地域では前号の1時間雨量の基準を超えること（概ね20ミリ程度上回る）こと
 - 新たな二次細分地域で上記の基準を満たす大雨となっていること

第1号自体が、大雨災害につながるような稀にしか観測しない雨量であることのお知らせである。
 第2号以降は、「さらに雨の降り方が強くなった」
 もしくは「雨雲が広がっている（移動含む）」ことから、引き続き確認が必要となります。

気象防災速報（記録的短時間大雨）の地域や平文等について

```
<Kind>  
  <Name>情報タグ</Name>  
  <Condition>記録雨</Condition>  
</Kind>  
<Areas codeType="気象情報/府県予報区・細分区域等">  
  <Area>  
    <Name>網走地方</Name>  
    <Code>013010</Code>  
  </Area>  
</Areas>
```

電文上の地域表現

- ・ 情報タグは{記録雨}を単独で利用します。{大雨}等と併用しません。
- ・ {観測値が属する一次細分地域等}を表現する。
※ 平文で呼びかける二次細分地域は入らない

記載例

<Text>13時10分、北海道美幌町で記録的短時間大雨。美幌町付近で1時間に約100ミリ。美幌で1時間に93ミリ。猛烈な雨が降っており、災害発生の危険度が急激に高まっています。</Text>

発表した事実をお知らせ

観測値情報①

観測値情報②

簡潔な解説（全国一律）

{観測時刻、}

{観測値もしくは

解析値が属する二次細分域}で
記録的短時間大雨。

・解析雨量で解析された場合： {〇〇付近で} 1時間に {約〇〇ミリ}。

・雨量計で解析された場合： {〇〇で} 1時間に {〇〇ミリ}。

※ 雨量計の場合は1ミリ単位で表現しますが、

解析雨量の場合は階級値を用いて“付近”や“約”を付してまとめた値で表現します。

観測値等のテキスト情報は、基準に合致した回数だけ繰り返します。

（XML電文上では、観測実況として構造化してしています）

※ 気象庁、気象庁外の雨量データ、速報版解析雨量、解析雨量のデータは

入電時刻（システム上で利用可能となる時刻）が様々であることから、

複数の観測時間の観測結果をお知らせすることもあります。

気象防災速報（記録的短時間大雨）のまとめ

- これまでは気象情報において、「記録的短時間大雨情報（VPOA50）」として、大雨警報で警戒・嚴重警戒を呼び掛けている状況で、当該府県において数年に一度程度しか発生しないような1時間雨量を観測や解析したりしたとき、さらに強く警戒を呼び掛ける目的として発表し、その見出しで警戒事項等を記載し呼びかけておりました。（通称「記録雨」のこと）。
- R8からは、上記の気象情報の目的は変更せず、新設する極端な現象が発生または発生しつつあることを速報する「府県気象防災速報（VPBS50）」でその旨を発表するよう変更します。その際にテキスト上の地域表現は警報等と同じ細分に見直（統一）し、情報タグは「記録雨」を単独でとり、表題のキーワードは「記録的短時間大雨」を利用します。また、テキストには「猛烈な雨が降っており、災害発生危険度が急激に高まっています。」と記述することとし、この情報の意味を分かりやすくします。
- この変更により、システム処理がしやすくなるほか、それぞれ固有のキーワード等を用いることで、どのような現象による情報で一目でわかるようになり、そのキーワードの情報がどのような目的や気象情報で発表されるか等を事前に理解しておくことで、警報等の警戒レベル相当情報を補足する情報として、組み合わせることで最大限に利用いただきやすくなります。
- 電文は変更となりますが、これまで同様の気象状況において発表される防災速報となりますので、この情報が発表された場合は、これまで同様の防災対応や呼びかけにご利用いただくことが可能です。
- システム処理のための電文のとりうる値などは「別紙○_気象防災速報の電文構造.xlsx」にまとめておりますので活用ください。また、情報の内容に詳しく確認したい場合はそれぞれの気象庁HPの説明をご確認ください。

気象防災速報（線状降水帯発生）
気象防災速報（線状降水帯直前予測※）
の運用や変更について

※ 線状降水帯直前予測は、R8出水期から始める新情報となります

気象防災速報（キーワード：線状降水帯発生）について

大雨による災害発生の危険度が急激に高まる中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報です。見出しにおいて、対象となる一次細分区域とその旨を端的にお知らせします。

見出し：ヘッド部テキスト（Headline/Text） ※ 速報的に伝える、人が読むことを前提にした呼びかけを記載

千葉県北西部、北東部、南部では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続けています。命に危険が及ぶ災害発生の危険度が急激に高まっています。
※一次細分区域名以外は定型文

赤：どこで、何が（根拠となる解析と同一地域）
紫：簡潔な解説

線状降水帯が解析された一次細分を繰り返す（まとめない）（〇〇県＋一次細分では…）

情報の示す地域：ヘッド部エリア（Headline/Areas）

```
<Areas codeType="気象情報/府県予報区・細分区域等">
  <Area>
    <Name>北西部</Name>
    <Code>120010</Code>
  </Area>
  <Area>
    <Name>北東部</Name>
    <Code>120020</Code>
  </Area>
  <Area>
    <Name>南部</Name>
    <Code>120030</Code>
  </Area>
</Areas>
```

※ 気象防災速報のとおり地域（一次細分地域）と平文の呼びかけ地域（一次細分地域）が合致する。
※ 府県気象解説情報と電文発表単位は同様だが、対象となる「一次細分区域等」に絞り込む。

- 防災気象速報（線状降水帯発生）の見出し（平文）人が読むことを前提に、一次細分区域単位で呼びかける。
 - 〇 「線状降水帯発生」というキーワードにより
それによる非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を伝える。
 - 〇 災害発生の危険度が急激に高まっている状況を伝える。

- 事前を知っておくと、より活用できる！
 - 〇 「線状降水帯発生」が発表されたときには
 - ・ 100ミリ以上の面積が500km²以上、かつ線状に広がっている
 - ・ 上記領域の中で、発生した時刻までの前3時間雨量で最大150ミリ以上を解析しているところがある
（現在時刻から30分先までの解析で該当する場合もある）
 - ・ 線状の領域内に**キキクル紫（危険）**が出現し、その基準を大きく超えている。
（気象庁ではレベル4相当情報を発表している場合など危険度が高まっている場合が多い）
 - 〇 とっていただきたい行動
 - ・ 既に相応の大雨がもたらされ（前3時間で大雨になっている）、
災害の危険度がレベル4相当を大きく超えるまで高まっている地域がある。
 - ・ 線状降水帯は停滞することが多いことから、更に雨が降り続く可能性もある。
 - ・ そのため、キキクル等のPULL情報も併用しながら、周りの状況を確認し、
避難場所への避難がcaって危険な場合は、少しでも崖や沢から離れた建物や、
少しでも浸水しにくい高い場所に移動するなど、身の安全を確保していただきたい。

観測値等：ボディ部の気象情報（Body/Meteorologicalinfo）

```
<Body xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jaxml1/body/meteorology/" xmlns:
  <MeteorologicalInfo type="観測状況">
    <DateInfo>2023-09-08T10:10:00+09:00</DateInfo>
    <Time>
      <Kind>
        <Property>
          <Type>気象現象の実況</Type>
          <EventPart>
            <Event type="線状降水帯">
              <EventName>線状降水帯発生</EventName>
              <Time>2023-09-08T10:10:00+09:00</Time>
            </Event>
          </EventPart>
        </Property>
        <Kind>
          <Area codeType="気象情報/府県予報区・細分区域等">
            <Name>北西部</Name>
            <Code>120010</Code>
          </Area>
        </Kind>
      </Time>
      <Kind>
        <Property>
          <Type>気象現象の実況</Type>
          <EventPart>
            <Event type="線状降水帯">
              <EventName>線状降水帯発生</EventName>
              <Time>2023-09-08T10:10:00+09:00</Time>
            </Event>
          </EventPart>
        </Property>
        <Kind>
          <Area codeType="気象情報/府県予報区・細分区域等">
            <Name>北東部</Name>
            <Code>120020</Code>
          </Area>
        </Kind>
      </Time>
      <Kind>
        <Property>
          <Type>気象現象の実況</Type>
          <EventPart>
            <Event type="線状降水帯">
              <EventName>線状降水帯発生</EventName>
              <Time>2023-09-08T10:10:00+09:00</Time>
            </Event>
          </EventPart>
        </Property>
        <Kind>
          <Area codeType="気象情報/府県予報区・細分区域等">
            <Name>南部</Name>
            <Code>120030</Code>
          </Area>
        </Kind>
      </Time>
    </Time>
  </MeteorologicalInfo>
</Body>
```

解析1

解析2

解析3

- 【気象防災速報（線状降水帯発生）の運用】
 - ・ 線状降水帯は幅をもった現象であることから一次細分区域単位で解析しその一次細分区域に対して呼びかける。
（見出しで呼びかける一次細分区域と合致）
 - ・ 解析時刻までの前3時間雨量
解析時刻の10分先までの前3時間雨量
解析時刻の30分先までの前3時間雨量
いずれかで基準に該当した場合に発生と扱う。
 - ・ 該当情報の再発表は別の一次細分地域が新たに対象となったとき行う。
（すでに発生中の地域も新たに判定し更新する。そのため、解析1～3のEventPart/Timeは同じ時刻となります）
 - ・ 状況に特段の変化がない限り3時間後に行う。
（3時間10分後の解析で新たに判定する）

XML電文の詳しい構造は「別紙_気象防災速報の電文構造.xlsx」を参照

気象防災速報（キーワード：線状降水帯直前予測）について

今後3時間以内に、線状降水帯の発生により非常に激しい雨が降り続く可能性が高まった場合に発表するもので、線状降水帯の発生をお知らせする「気象防災速報（線状降水帯発生）」の発表基準を今後3時間以内に満たすと予測解析された場合に発表します。見出しにおいて、対象となる一次細分区域とその旨を端的にお知らせします。

ただし、既に線状降水帯発生している(実況検出されている)場合は、予測が解析されても本情報は発表しません。

見出し：ヘッド部テキスト（Headline/Text） ※ 速報的に伝える、人が読むことを前提にした呼びかけを記載

福岡県福岡地方、筑豊地方、筑後地方では、今後3時間以内に線状降水帯が発生し、非常に激しい雨が同じ場所で降り続く可能性が高まっています。命に危険が及ぶ災害発生の危険度が急激に高まるおそれがあります。

※ 一次細分区域名以外は定型文

赤：どこで、何が（根拠となる解析と同一地域）
紫：簡潔な解説

線状降水帯が解析された一次細分を繰り返す（まとめない）
（〇〇県＋一次細分では…）

情報の示す地域：ヘッド部エリア（Headline/Areas）

```
<Areas codeType="気象情報/府県予報区・細分区域等">
  <Area>
    <Name>福岡地方</Name>
    <Code>400010</Code>
  </Area>
  <Area>
    <Name>筑豊地方</Name>
    <Code>400030</Code>
  </Area>
  <Area>
    <Name>筑後地方</Name>
    <Code>400040</Code>
  </Area>
</Areas>
```

※ 気象防災速報のとおり地域（一次細分地域）と平文の呼びかけ地域（一次細分地域）が合致する。
※ 府県気象解説情報と電文発表単位は同様ですが対象となる「一次細分区域等」に絞り込む。

・線状降水帯直前予測の見出し（平文）
人が読むことを前提に、一次細分区域単位で呼びかける。
○ 「線状降水帯直前予測」というキーワードにより
直前（今後3時間以内）に、対象地域において線状降水帯が発生する恐れが高まっていることを伝える。

事前を知っておくと、より活用できる！

- 「線状降水帯直前予測」が発表されたときには
 - ・ 今後3時間以内に線状降水帯が発生するおそれ
具体的には、線状降水帯が発生した場合は
 - ・ 100ミリ以上の面積が500km²以上、かつ線状に広がっている
 - ・ 線状の領域内に前3時間雨量で最大145ミリ以上を解析するところがある
 - ・ 線状の領域内にキキル紫（危険）が出現し、その基準を大きく超過して、危険度が急激に高まっている場合が多い。
 - ・ 発生しない場合でも
 - ・ 前3時間最大100ミリ以上の大雨となる可能性が高い。
- とっていただきたい行動
 - ・ すでに線状降水帯以外で大雨となっている場合もあり、キキル等のPULL情報を利用して、早めの避難等を心掛ける。
 - ・ 今後3時間以内の避難が必要になるレベル4相当の大雨の可能性が高まることより、自治体の避難情報も参照しつつ、線状降水帯予測マップ等のPULL情報も併用しながら、動けるうちの早めの対応がより重要となる。

観測値等：ボディ部の気象情報（Body/MeteorologicalInfo）

```
<Body xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml/body/meteorolog">
  <MeteorologicalInfo type="観測実況">
    <DateTime>2023-07-10T02:09:00</DateTime>
    <Item>
      <Property>
        <Type>気象現象の実況</Type>
        <EventPart>
          <Event type="線状降水帯">
            <EventName>線状降水帯予想</EventName>
            <Time>2023-07-10T01:50:00</Time>
          </Event>
        </EventPart>
      </Property>
      <Area codeType="気象情報/府県予報区・細分区域等">
        <Name>福岡地方</Name>
        <Code>400010</Code>
      </Area>
    </Item>
    <Item>
      <Property>
        <Type>気象現象の実況</Type>
        <EventPart>
          <Event type="線状降水帯">
            <EventName>線状降水帯予想</EventName>
            <Time>2023-07-10T02:00:00</Time>
          </Event>
        </EventPart>
      </Property>
      <Area codeType="気象情報/府県予報区・細分区域等">
        <Name>筑豊地方</Name>
        <Code>400030</Code>
      </Area>
    </Item>
    <Item>
      <Property>
        <Type>気象現象の実況</Type>
        <EventPart>
          <Event type="線状降水帯">
            <EventName>線状降水帯予想</EventName>
            <Time>2023-07-10T02:00:00</Time>
          </Event>
        </EventPart>
      </Property>
      <Area codeType="気象情報/府県予報区・細分区域等">
        <Name>筑後地方</Name>
        <Code>400040</Code>
      </Area>
    </Item>
  </MeteorologicalInfo>
</Body>
```

解析1

解析2

解析3

【気象防災速報（線状降水帯直前予測）の運用】

- ・ 線状降水帯は幅をもった現象であることから一次細分区域単位に対して予測する。（見出しで呼びかける一次細分区域と合致）
- ・ 40分～3時間先までのいずれかの前3時間雨量で基準に該当した場合に直前予測を行う。
- ・ XML電文上では予測先の時刻ではなく、発表の根拠となる、予測を解析した時刻(起時)を一次細分区域ごとに記載する。
- ・ 該当情報の再発表は一次細分地域が新たに対象となったとき行う。（すでに直前予測中の地域（過去3時間）は、引き続き記載して呼びかける。解析1～3のEventPart/Timeは別の時刻（パラパラ）になる場合がある）
- ・ 状況に特段の変化がない限り3時間後に行う。（3時間10分後の解析で新たに判定する）

XML電文の詳しい構造は「別紙_気象防災速報の電文構造.xlsx」を参照

気象防災速報（線状降水帯発生/直前予測）の発表まで（イメージ図）

気象防災速報（線状降水帯発生）の詳細は、以下のページで確認できます

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/kishojoho_senjokousuitai.html

気象防災速報（線状降水帯直前予測）の詳細は、以下のページで確認できます

- ・ 3月予定の線状降水帯直前予測に関する報道発表資料
- ・ 線状降水帯予測精度向上ワーキンググループ（第11回）資料

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/shingikai/kondankai/senjokousuitai_WG/part11/gaiyou.html

【気象庁での危機感の伝え方】

気象解説情報（大雨）等で大雨に関する危機感を呼びかけるとともに、線状降水帯が発生した場合はそれ以上の大雨となり災害発生の危険度が急激に高まることから、その旨を**気象解説情報（線状降水帯半日前予測）**で発表し心構えを一段高めていただく目的としています。

半日前予測

気象解説情報（線状降水帯半日前予測）で扱う
半日程度先までに線状降水帯を予報する場合に発表

【気象庁での危機感の伝え方】

気象防災速報（線状降水帯直前予測）は、線状降水帯による大雨発生の確度が高まったことをお知らせします。すでに線状降水帯以外的大雨により警報等を発表している場合など様々な状況の呼びかけがありえます。その中で今後線状降水帯が発生した場合には更なる状況の悪化が見込まれるので、危険度を確認するキキクル、今後の発生のおそれを面的に示す線状降水帯予測マップも併用するなど、自治体の避難情報も参照しつつ、避難に関する行動を望むように呼びかけます。

直前予測

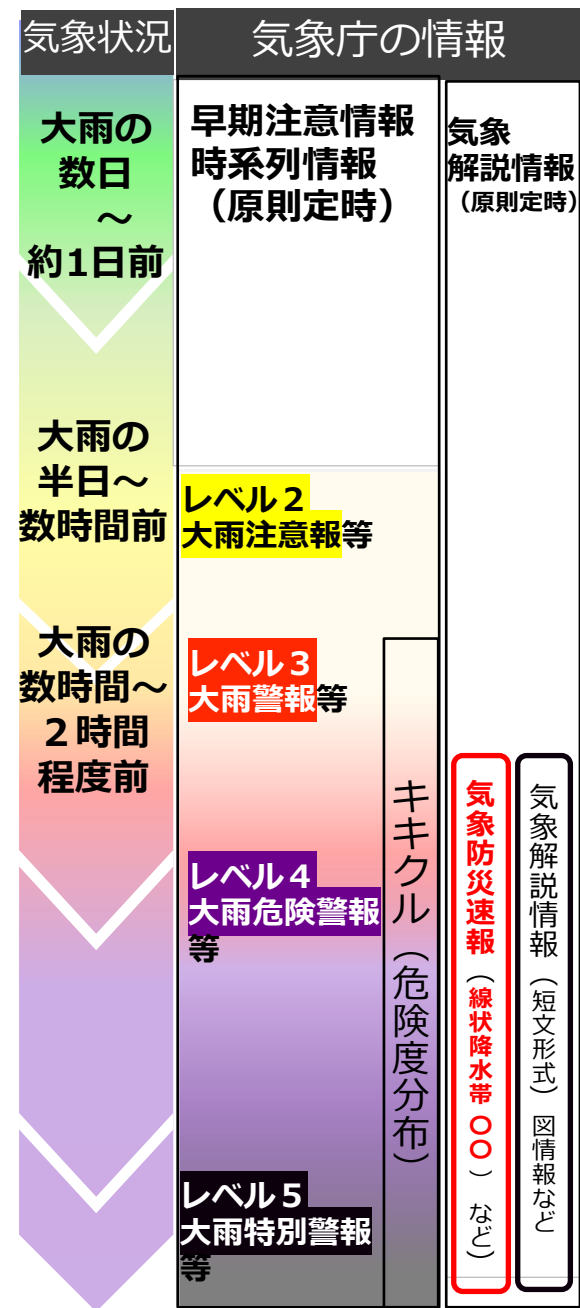
気象防災速報（線状降水帯直前予測） **R8から気象防災速報として発表**
3時間先までに線状降水帯を予測した場合に発表
※ 予想が難しい現象のため、半日前予測が事前に発表されていない場合もあります

発生

気象防災速報（線状降水帯発生）
線状降水帯を解析した場合に発表
※ 予想が難しい現象のため、半日前予測や直前予測が事前に発表されていない場合もあります

【気象庁での危機感の伝え方】

気象防災速報（線状降水帯発生）は、線状降水帯による大雨が発生し、急激に危険度が高まり、災害の危険度がレベル4相当を大きく超えるまで高まっている地域があるときに発表します。レベル4相当を大きく超えるような現象が発生もしくは発生しているという危機感をもち厳重な警戒を呼びかけます。



気象防災速報（線状降水帯発生/直前予測）のまとめ

【線状降水帯発生】

- これまでは気象情報において、大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、前3時間の雨量等にて発表基準に該当した場合は、非常に激しい雨が同じ場所で実際に降り続けている状況をお知らせするため「線状降水帯」のキーワードを使って、「全般/地方/府県気象情報（VP（Z/C/F）J50）」にて、「顕著な大雨に関する気象情報」として警戒事項等を記載し呼びかけておりました（通称「顕著雨」のこと）
- R8からは、上記の気象情報の目的は変更せず、新設する極端な現象が発生または発生しつつあることを速報する「府県気象防災速報（VPBS50）」でその旨を発表するよう変更します。
その際の情報タグは「線状降水帯発生」を単独でとり、表題のキーワードは「線状降水帯発生」を利用します。
また、テキストでは「線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続けています。命に危険が及ぶ災害発生の危険度が急激に高まっています。」と記述し、この情報の意味を分かりやすくお伝えします。
なお、全般/地方では気象防災速報を取り扱わないことから、府県の気象防災速報のみで取り扱います。

【線状降水帯直前予測】

- R8.5下旬から、今後3時間以内に線状降水帯の発生により非常に激しい雨が降り続く可能性が高まった場合には、線状降水帯による大雨発生の確度が高まったことを直前にお知らせするために、その旨を新たに発表します。
その際の情報タグは「線状降水帯直前」を単独でとり、表題のキーワードは「線状降水帯直前予測」を利用します。
- 以下の資料についてもご参照ください。
 - 3月予定の線状降水帯直前予測に関する報道発表資料
 - 線状降水帯予測精度向上ワーキンググループ（第11回）資料

【線状降水帯発生/線状降水帯直前予測】

- 従前の顕著な大雨に関する気象情報とは電文が変更となりますが、これまでと同様の気象状況において発表される気象防災速報となりますので、「線状降水帯発生」はこれまで同様の防災対応や呼びかけにご利用いただくことが可能です。また、新規となる「線状降水帯直前予測」も、防災行動がとれる最終段階に発表される情報であり、有効活用いただきたいと考えております。
- システム処理のための電文のとりうる値などは「別紙〇_気象防災速報の電文構造.xlsx」にまとめておりますので活用ください。
また、情報の内容に詳しく確認したい場合はそれぞれの気象庁HPの説明をご確認ください。

気象防災速報（短時間大雪） の運用や変更について

気象防災速報（キーワード：短時間大雪）について

重大な災害の発生する可能性が高まり、一層の警戒が必要となるような短時間の大雪となることが見込まれる場合に「顕著な大雪に関する府県気象情報」を発表しています。これは降雪の勢いが強く、除雪が降雪の勢いに追いつかないことで、大規模な交通障害が発生する可能性の高い状況を想定しており、現在の降雪量と今後の見通しを簡潔に記述した気象防災速報の気象情報として発表します。

※R8.2現在 雪の降り方や雪に対する備えなどには地域ごとに特徴があり、大規模な交通障害の要因となる雪の降り方も様々であることから、短時間の大雪と大規模な交通障害の関係性が明らかとなった地域において運用。北陸地方の4県（新潟、富山、石川、福井）、東北地方の2県（福島（会津地方）、山形）、近畿地方の3府県（滋賀、京都、兵庫）、中国地方の4県（広島、岡山、鳥取、島根）、東海地方の1県（岐阜（関ヶ原町付近））で運用を行っている。

見出し：ヘッド部テキスト（Headline/Text） ※ 速報的に伝える、人が読むことを前提にした呼びかけを記載

24日3時までの6時間に、勝山市滝波町で36センチ、越前市粟田部町で26センチの顕著な降雪を観測しました。この強い雪は24日夕方にかけて続く見込みです。嶺北では、大規模な交通障害の発生するおそれが高まっています。

赤：いつ・どこで・何が
青：根拠となる実況
紫：簡潔な解説

地域による
市町村等をまとめた地域が多いが、一次細分地域や組み合わせ（○○の平地）等もある

- ・気象防災速報（短時間大雪）の見出し（平文）
人が読むことを前提に、観測した地点を根拠として
原則として警戒を呼び掛ける地域や期間を記載して呼びかける。
※ 呼び掛け地域の表現等は、降雪の状況により異なる
- 実際に強い雪が降っているという情報は、観測値として提供します。

気象防災速報（短時間大雪）における、その他の気象防災速報との違い

- 地域毎に雪の降り方等には特徴があり、災害にも特徴があることから、地元気象台が工夫した平文によって呼びかけています。全国で統一した文言ではありません。

- 事前に知っておくと、より活用できる！
- 「短時間大雪（顕著な大雪）」が発表されたときには
 - ・おむね3時間で20から25センチ、または6時間で30から40センチの降雪を観測（過去の交通障害等を踏まえ発表の目安を設定）
 - ・その後も警報級の降雪が続くと予想。
 - とっていただきたい行動
 - ・これまでの発表時には、その多くで実際に大規模な車両滞留が発生。該当の気象情報が発表された地域では、不要不急の外出を控えていただき、また他の地域からもその地域に向かわないことが肝要です。

情報の示す地域：ヘッド部エリア（Headline/Areas）

```

<Areas codeType="気象情報/府県予報区・細分区域等">
  <Area>
    <Name>嶺北</Name>
    <Code>180010</Code>
  </Area>

```

※ 平文の呼びかける地域に該当するコード（市町村等をまとめた地域など）ではなく、呼びかける地域を含んだNameやCodeが提供されます。
府県気象解説情報と電文発表単位は同様ですが「一次細分区域等」へ絞りこみます。
例：岐阜の関ヶ原町付近を対象の場合でも、一次細分の美濃地方のNameとCodeになります。

観測値等：ボディ部の気象情報（Body/MeteorologicalInfo）

```

<Body xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/body/meteorology1/" xmlns:jmx_eb="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/elementBasis1/">
  <MeteorologicalInfo type="観測実況">
    <Date time="2024-01-24T03:51:00+09:00"></Date time>
    <Item>
      <Kind>
        <Property>
          <Type>雪の実況</Type>
          <SnowfallDepthPart>
            <jmx_eb:SnowfallDepth type="6時間の降雪深さ" unit="cm" description="36センチ">36</jmx_eb:SnowfallDepth>
            <Time>2024-01-24T03:00:00+09:00</Time>
          </SnowfallDepthPart>
          </Kind>
          <Station>
            <Name>勝山市滝波町</Name>
            <Code type="他機関観測地点番号">1057999</Code>
            <Location>福井県</Location>
          </Station>
        </Item>
      </Kind>
      <Property>
        <Type>雪の実況</Type>
        <SnowfallDepthPart>
          <jmx_eb:SnowfallDepth type="6時間の降雪深さ" unit="cm" description="26センチ">26</jmx_eb:SnowfallDepth>
          <Time>2024-01-24T03:00:00+09:00</Time>
        </SnowfallDepthPart>
        </Property>
        <Station>
          <Name>越前市粟田部町</Name>
          <Code type="他機関観測地点番号">1057998</Code>
          <Location>福井県</Location>
        </Station>
      </Item>
    </MeteorologicalInfo>
  </Body>

```

※ 積雪計の観測の場合は、その地点（地点番号）を提供します。
地点番号と緯度経度や二次細分区域コードの対応表は気象庁、気象庁外の観測値ともに別に提供しております。

XML電文の詳しい構造は「別紙_気象防災速報の電文構造.xlsx」を参照

気象防災速報（短時間大雪）の発表まで（イメージ図）

気象防災速報（短時間大雪）の詳細は、以下のページで確認できます
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/snow/snow.html>

※ 冬季の日本海側では14日前～6日前から早期天候情報等で呼びかける場合があります。

【気象庁での危機感の伝え方】

短時間による大雪を対象とし、実際に観測されることが発表基準になります。雪の降り方や雪に対する備えなどには地域ごとに特徴があり、大規模な交通障害の要因となる雪の降り方も様々であるため、全国で一律で運用をすることとしておりません。短時間の大雪と大規模な車両滞留等との関係性が明らかになった地域で、かつ情報発表が防災機関等で有効に活用されることが明らかになった地域において運用を開始することとしています。そのような災害が実況で発生もしくは発生しつつあるという危機感をもって、さらに強く警戒を呼びかけます。

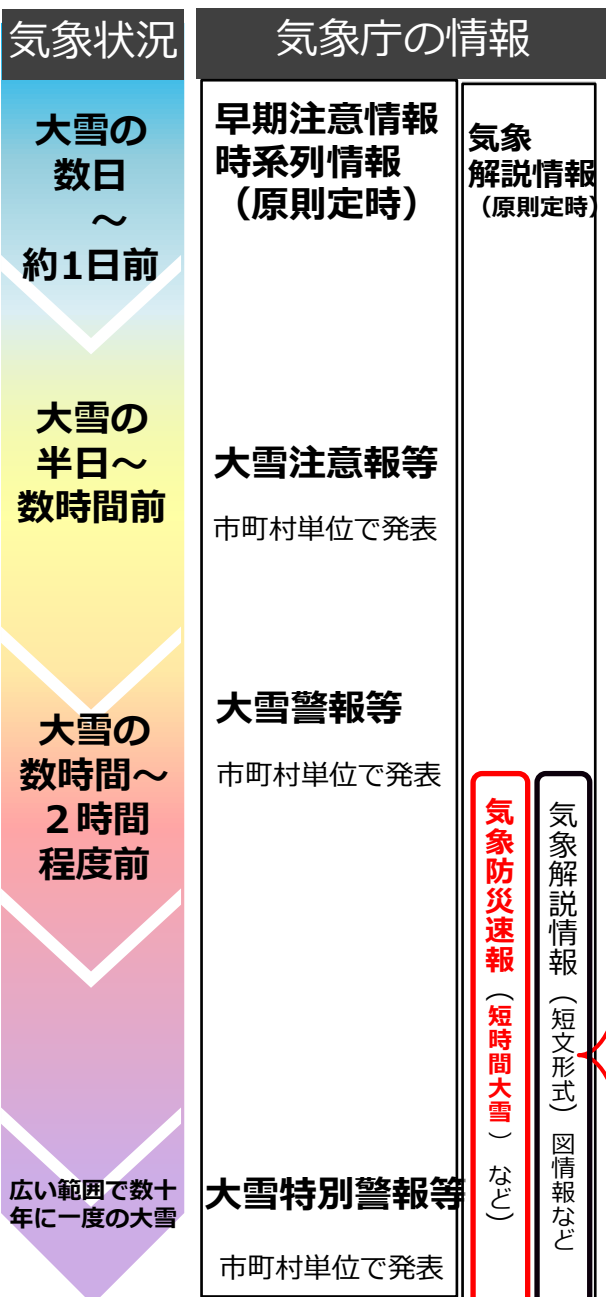
気象防災速報（短時間大雪）は、重大な災害の発生する可能性が高まり、一層の警戒が必要となるような**短時間**の**大雪**となることが見込まれる場合に発表する情報である。

【発表基準】

- ・おおむね 3 時間で20から25センチ、または 6 時間で30から40センチの降雪を観測すること
- ・その後も警報級の降雪が続くと予想されること

※ 警報等の発表基準とは厳密に一致しないものの、大雪警報で警戒を呼びかけている中で、**一層の警戒を呼び掛ける必要があるときに発表されることが多い**です。

※ 根拠として報じる観測値を含む地域（市町村をまとめた地域等）では交通障害が発生しているおそれがあるので平文で直接表現します。その他の地域からもその地域に向かわないことが肝要です。なお、運用する地域等により呼びかけ内容が若干変わることがありますので、表現の違いにご留意ください。



気象解説情報（短時間大雪）（短時間大雪）（短時間大雪）（短時間大雪）
 気象解説情報（短時間大雪）（短時間大雪）（短時間大雪）
 気象解説情報（短時間大雪）（短時間大雪）（短時間大雪）

雪の降り方が一層激くなった場合
 →

(大雪に対する一層の警戒を呼びかけ)	
大雪に関する気象情報 (大雪に対する 厳重な警戒 を呼びかけ)	顕著な大雪に関する気象情報 (短時間 の大雪に対する 一層の警戒 を呼びかけ)
降雪が大雪警報の基準を大幅に上回る場合や、普段雪の少ない地域で大雪警報級の降雪が予想される場合	重大な災害の発生する可能性が高まり、 一層の警戒が必要 となるような 短時間 の 大雪 となること が見込まれる場合

R8では気象防災速報としない
 解説情報（短文形式含む）等で扱う

R8から気象防災速報として発表

気象防災速報（短時間大雪）の地域や平文等について

```
<Kind>  
<Name>情報タグ</Name>  
<Condition>短時間大雪</Condition>  
</Kind>  
<Areas codeType="気象情報/府県予報区・細分区域等">  
<Area>  
<Name>嶺北</Name>  
<Code>180010</Code>  
</Area>
```

電文上の地域表現

- ・情報タグは {短時間大雪} を単独で利用します。{大雪} 等と併用しません
- ・ {観測値が属する一次細分地域等} で表現する。
- ※ 平文で市町村をまとめた地域、三次細分地域等と呼ばけても、その地域は入りません。
また、状況によっては一次細分を複数地域をとる場合もあります。

記載例 1

観測値情報①

発表した事実をお知らせ

南丹市美山で、8日11時までの6時間に35センチの顕著な降雪を観測しました。

この強い雪は8日夜のはじめ頃にかけて続く見込みです。簡潔な解説（地方毎に詳細は異なる可能性あり）

南丹・京丹波では、大規模な交通障害の発生するおそれが高まっています。

記載例 2

観測値情報①

観測値情報②

観測値情報③

観測値情報④

発表した事実をお知らせ

23日17時までの6時間に、西川町大井沢では38センチ、金山では36センチ、小国では29センチ、大江町左沢では27センチの記録的な降雪を観測しました。

この強い雪は24日明け方にかけて続く見込みです。

簡潔な解説（地方毎に詳細は異なる可能性あり）

最上、西村山、西置賜では、短時間の大雪に伴って路面状況が急速に悪化し、大規模な交通障害の発生するおそれが高まっています。大雪に厳重に警戒してください。

1 センテンス目：

<基準に達した地点が一つの場合（記載例1）>

{どこどこ} で（は、） {いついつ} までの {警報基準より短い3または6} 時間 [で | に]

〇〇センチの顕著な（または記録的な）降雪を観測し（、 {警報基準の6または12} 時間の降雪量が〇〇センチに達し）ました。

基本的な呼びかけ
（地域によって変わります）

<基準に複数地点が達した場合（記載例1）>

{いついつ} までの {警報基準より短い3または6} 時間に、 {どこどこ} では〇〇センチ（、 {どこどこ} では〇センチ）の顕著な（または記録的な）降雪を観測しました。

2 センテンス目：

この強い雪は {いついつ} にかけて続く見込みです。

3 センテンス目：

{どこどこ} （と {どこどこ} ）では、（短時間の大雪に伴って路面状況が急激に悪化し、）大規模な（または深刻な）交通障害の発生するおそれが高まっています。

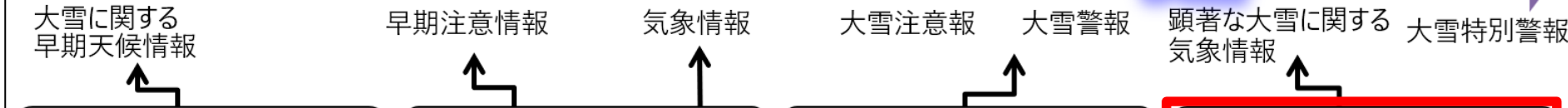
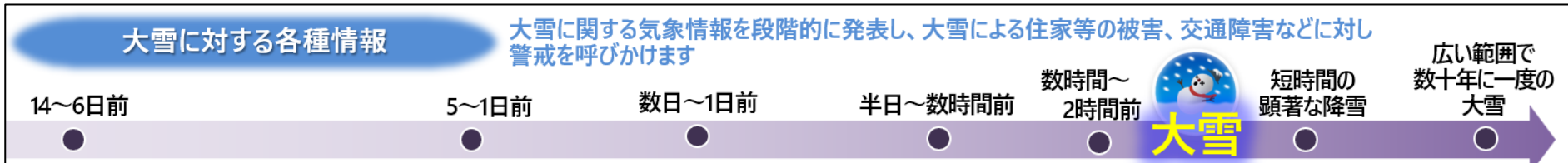
4 センテンス目：

※省略あり（すでに大雪に関する厳重警戒を呼び掛けている場合などに追記することがある）
大雪に厳重に警戒してください。

※ {どこどこ} は市町村名、市町村をまとめた地域（+平地、山沿い）、一次細分地域等と呼ばける。

【参考】 現行の大雪に対する警戒呼びかけについて

R8年1月 時点



大雪に関する早期天候情報

6日から14日先に、平年よりかなり多い降雪が予想される場合に発表
※冬季の日本海側を対象

1/5発表

発表中 発表なし

早期注意情報

5日先までに、警報級の大雪が予想される時に発表
警報級の可能性を、[高]・[中]の2段階で表現

新雪量下界	18日				19日			20日	21日	22日
	6-12	12-18	18-24	00-06	06-12	12-24				
警報級の可能性	[中]	[高]	[高]	[高]	[中]	[中]				
6時間最大降雪量(センチ)	25	30	40	35	40					
24時間最大降雪量(センチ)					700	5100				

大雪注意報・警報・特別警報

大雪の見込みに応じて、注意報や警報等を段階的に発表
大雪警報は、住家等の被害や交通障害など、大雪により重大な災害が発生するおそれのときに発表

顕著な大雪に関する気象情報

一層の警戒が必要となるような短時間の大雪が見込まれる場合に発表
※現在14府県で運用

顕著な大雪に関する福井県気象情報

福井市で8日11時までの6時間で24センチの顕著な降雪を観測しました。この強い雪は9日にかけて続く見込みです。嶺北では、**大規模な交通障害の発生するおそれ**が高まっています。

全般・地方・府県気象情報

警報や注意報に先立って発表
今後の降雪量の予想や、防災上の留意点等も加えて注意を呼びかけ

東北地方では、冬型の気圧配置や上空の強い寒気の影響により、大雪となっている所があります。1日夜遅くにかけて、大雪による交通障害、屋根からの落雪、建物や農業施設等への被害に警戒してください。

【雪の予想】
1日18時から2日18時までに予想される24時間降雪量は多い所で、
東北日本海側 山沿い 70センチ
東北日本海側 平地 30センチ

府県天気予報

天気の予報を、府県をいくつかの区域に分割した単位で発表

日付	今日	明日	後日	2023年1月6日(日) 福井県地方気象台 発表						
				11時(日)	12時(日)	13時(日)	14時(日)	15時(日)	16時(日)	
晴間断	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴
降水確率(%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
最高気温(℃)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
最低気温(℃)	-3	-3	-3	-3	-3	-3	-3	-3	-3	-3

天気分布予報

明日までの天気予報を分布形式で発表

気象防災速報（短時間大雪）のまとめ

• これまでは気象情報において、「府県気象情報（VPFJ50）」として、大雪に一層の警戒を呼び掛ける目的として、

(1) 大雪に対して嚴重な警戒を呼びかける情報※1

※1 警報基準を大幅に上回る場合等の呼びかけ

(2) 短時間の大雪に対して一層の警戒を呼びかける情報※2

※2 実況で観測することが基準に含む呼びかけ

を発表し、その見出しや本文において警戒事項等を記載し呼びかけておりました。特に(2)の情報を「顕著な大雪に関する府県気象情報」の表題を用いておりました（通称「顕著雪」のこと）。

• R8からは、新設する極端な現象が発生または発生しつつあることを速報的に伝える「府県気象防災速報（VPBS50）」において、実況の観測を基準に発表する(2)の内容を扱い発表するよう変更します。その際に、情報タグは「短時間大雪」を単独でとり、表題のキーワードも「短時間大雪」を利用します。

• 「顕著な大雪に関する府県気象情報」は、短時間の大雪と大規模な車両滞留等との関係性が明らかになった地域（東北南部から山陰にかけての日本海側を中心とした地域）で行うこととしており、見出し等の呼びかけ（テキスト）は気象台毎に工夫しておることから、防災速報となっても呼びかけ文言は大きな変更予定はありません。

• 一方で呼びかけに多少の違いがあれど、（短時間大雪）のキーワード等の気象防災速報が発表された場合には、情報の発表目的は全国で概ね同じですので、そのキーワードの情報が、どのような目的や気象情報で発表されるかを事前に理解しておくことで、警報等と組み合わせて最大限に利用いただきやすくなります。

• 電文は変更となりますが、これまで同様の気象状況において発表される防災速報となりますので、この情報が発表された場合は、これまで同様の防災対応や呼びかけにご利用いただくことが可能です。なお、(1)の内容は、府県気象解説情報（VPFJ51）で引き続き、呼びかけてまいります。

• システム処理のための電文のとりうる値などは

「別紙〇_気象防災速報の電文構造.xlsx」にまとめておりますので活用ください。

また、情報の内容に詳しく確認したい場合はそれぞれの気象庁HPの説明をご確認ください。

気象防災速報（竜巻注意/竜巻目撃） の運用や変更について

- ※ 従来の竜巻注意情報（VPHW50、VPHW51）を内容を
ヘッダ部の表題のみ変更し、気象防災速報として扱う。
（現行の利用者はシステム処理として大きな変更はありません）

気象防災速報（キーワード：竜巻注意/竜巻目撃）について

気象防災速報（竜巻注意/竜巻目撃）は、積乱雲の下で発生する竜巻、ダウンバーストなどの激しい突風（以下「竜巻等」）に対して注意を呼びかける情報で、雷注意報を補足する情報として発表します。対象地域内で竜巻等の発生する可能性が高まっている領域については、竜巻発生確度（竜巻発生確度ナウキャスト）でご確認ください。竜巻注意情報は、竜巻発生確度ナウキャストで発生確度2が現れた地域に発表しているほか、目撃情報が得られて竜巻等が発生するおそれが高まったと判断した場合にも発表しており、有効期間は発表から約1時間です。

見出し：ヘッド部テキスト（Headline/Text）

ヘッド部：Titleのみ変更

kishou.go.jp/jmaxml1/">

従前の竜巻注意情報の電文をTitleは変更しますが、そのまま運用することとしているため、R8の変更点はこの記載のみです

【目撃情報あり】埼玉県南部で竜巻などの激しい突風が発生したとみられます。埼玉県南部、北部は、竜巻などの激しい突風が発生するおそれが非常に高まっています。空の様子に注意してください。雷や急な風の変化など積乱雲が近づく兆しがある場合には、頑丈な建物内に移動するなど、安全確保に努めてください。落雷、ひょう、急な強い雨にも注意してください。

赤：いつどこで何が（目撃あり、目撃なしで平文の表現に違いがあり）
青：根拠となる実況（目撃ありの場合は冒頭に追記） 紫：簡潔な解説

- ・気象防災速報（竜巻注意/竜巻目撃）の見出し（平文）は、
- ① 竜巻発生確度ナウキャストで発生確度2が予想された場合に 天気予報等に利用される発表地域（一次細分）で呼びかける。
- ② 目撃情報が得られた場合には、原則として 目撃された発表地域（一次細分）を記載（追記）するほか、
- ①で予想された地域に目撃地域（一次細分）を加えて呼びかける。
- ※ 竜巻発生確度ナウキャストの2がなくとも、目撃情報を根拠として発表する場合があります。

```
<EditorialOffice>熊谷地方気象台</EditorialOffice>
<PublishingOffice>熊谷地方気象台</PublishingOffice>
<Control>
</Control>
<lead xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/">
<Title>埼玉県気象防災速報（竜巻目撃）</Title>
<ReportCode>00</ReportCode>
<TargetDateTime>2015-07-17T09:21:00+09</TargetDateTime>
<ValidDateTime>2015-07-17T10:30:00+09</ValidDateTime>
<eventID>
</eventID>
<infoType>発表</infoType>
<Serial>1</Serial>
<infoKind>竜巻注意情報</infoKind>
<infoKindVersion>1.0</infoKindVersion>
<sigintID>
</sigintID>
<Text>【目撃情報あり】埼玉県南部で竜巻などの激しい突風が発生したとみられます。埼玉県南部、北部は、竜巻などの激しい突風が発生するおそれが非常に高まっています。空の様子に注意してください。雷や急な風の変化など積乱雲が近づく兆しがある場合には、頑丈な建物内に移動するなど、安全確保に努めてください。落雷、ひょう、急な強い雨にも注意してください。</Text>
```

情報の対象とする地域を記載

```
<Information type="竜巻注意情報（一次細分区域等）">
</Information>
<Information type="竜巻注意情報（一次細分区域等）">
<Kind>竜巻注意情報</Name>
<Code>1</Code>
<Condition>発表</Condition>
</Kind>
<Area codeType="気象情報/府県予報区・細分区域等">
</Area>
</Information>
```

ボディ部：変更なし

```
<Body xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/body/meteorology/">
<Warning type="竜巻注意情報（発表細分）">
</Warning>
<Warning type="竜巻注意情報（発表細分）">
</Warning>
<Warning type="竜巻注意情報（発表細分）">
</Warning>
<Warning type="竜巻注意情報（市町村等）">
</Warning>
<Warning type="竜巻注意情報（市町村等）">
</Warning>
</Body>
</report>
```

ヘッド部残り：変更なし

ボディ部：変更なし

- ※ VPHW50とVPHW51で、見出し等の記載は同じです。VPHW51においては、Head/Headline/Information type のとりうる値として「竜巻注意情報（目撃情報あり）」が表現され、機械的に判別しやすくなっています。
- ※ 1次細分あたりで判定し、平文に記載する地域とコード等の表現が完全に一致します。市町村まとめた地域等、市町村等の表現は、属する1次細分の判定と同じとなります。（例：あるA地域（一時細分）で発表する場合、属するA市、B市ともに発表となります）

- 事前に知っておくと、より活用できる！**
- 竜巻等に関する気象情報の段階的な発表
 - ・半日～1日程度前：気象解説情報（落雷・突風ほか）を発表
 - ※ 「竜巻などの激しい突風のおそれ」と明記して注意を呼びかける
 - ・数時間前：雷注意報
 - ※ 「竜巻」と明記し特段の注意を呼びかける
 - ・さらに、今まさに竜巻等が発生しやすい気象状況：
 - 気象防災速報（竜巻注意）
 - ・目撃情報が得られて竜巻等が発生するおそれ
 - 気象防災速報
 - が高まったと判断した場合：（竜巻目撃）
 - とっていただきたい行動
 - ・周囲の空の様子に注意し積乱雲が近づく兆しの有無を確認するとともに、面的情報である竜巻発生確度で危険度の高まっている領域を確認し、必要に応じて頑丈な建物に避難するなど身の安全を確保する行動をとってください。

XML電文の詳しい構造は「竜巻注意情報_解説資料.pdf」を参照

気象防災速報（竜巻注意/竜巻目撃）の発表まで（イメージ図）

気象状況	気象庁の情報	
竜巻等 約1日前	解説情報 (定時)	
竜巻等の 数時間前	雷注意報	
竜巻等の 1時間 程度前	気象防災速報 (竜巻注意/竜巻目撃)	竜巻発生確度 ナウキャスト

気象防災速報（竜巻注意情報・竜巻発生確度ナウキャスト）の詳細は、以下のページで確認できます
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/tatsumaki.html>

気象防災速報（竜巻注意/竜巻目撃）は、府県気象解説情報や注意報等で竜巻などの激しい突風を呼び掛けている中で、**竜巻等が発生しやすい気象状況になった場合に発表する情報**である。

【発表基準】

- ・ 竜巻発生確度ナウキャストで発生確度 2 が予想された場合
- ・ 竜巻の目撃情報が得られた場合

- ・ 竜巻注意情報は、1時間の有効期限をもっています。
- ・ 竜巻等が発生しやすい気象状況が継続した場合には
第2号以降を発表し、引き続き竜巻等が発生しやすい気象状況を呼び掛けます。
- ・ 信頼性の高い目撃情報が入った場合には、
その旨を電文上で構造化してお伝えするほか、平文も一部変更して呼びかけます。

府県気象防災速報（竜巻注意）

埼玉県南部、北部は、竜巻などの激しい突風が発生しやすい気象状況になっています。空の様子に注意してください。雷や急な風の変化など積乱雲が近づく兆しがある場合には、頑丈な建物内に移動するなど、安全確保に努めてください。落雷、ひょう、急な強い雨にも注意してください。

府県気象防災速報（竜巻目撃）

【目撃情報あり】埼玉県南部で竜巻などの激しい突風が発生したとみられます。埼玉県南部、北部は、竜巻などの激しい突風が発生するおそれが非常に高まっています。空の様子に注意してください。雷や急な風の変化など積乱雲が近づく兆しがある場合には、頑丈な建物内に移動するなど、安全確保に努めてください。落雷、ひょう、急な強い雨にも注意してください。

- ・ 目撃あり/目撃なしに限らず、該当情報が発表された場合には、
竜巻発生確度ナウキャスト等のPULL情報を活用することが必要です。

気象防災速報（竜巻注意/竜巻目撃）のまとめ

- これまでは、府県毎に「竜巻注意情報（VPHW50、VPHW51）」として、積乱雲の下で発生する竜巻、ダウンバーストなどの竜巻などの激しい突風のおそれがある気象状況の場合に、注意を呼び掛ける目的として、雷注意報を補足する情報として発表してきておりました。
- R8からは、新設する極端な現象が発生または発生しつつあることを速報的にお伝えする「気象防災速報」とし竜巻注意/竜巻目撃など、それぞれのわかりやすい固有キーワードを用いて発表することと整理されました。
- 該当電文である(VPHW50、VPHW51)については、既に構造化されており、利用者が広く活用いただいていることから、電文は変更せずに、発表していくこととしました。その際に検討会の趣旨をふまえ、システム処理にかかる部分以外の表題のみを変更し運用することとしました。表題のキーワードは、目撃情報ありのときは「竜巻目撃」、それ以外の場合は「竜巻注意」を利用します。（VPBS50のフォーマットではないため、情報タグはありません）
- これまでと全く同じ気象状況において発表される防災速報となりますので、この情報が発表された場合は、これまで同様の防災対応や呼びかけにご利用いただくことが可能です。
- システム処理のための電文のとりうる値などは、従来から提供している「竜巻注意情報_解説資料.pdf」にまとめておりますので活用ください。また、情報の内容に詳しく確認したい場合はそれぞれの気象庁HPの説明をご確認ください。

記録的短時間大雨情報

要素名等	子要素・属性・とりうる値等	解説
Head部		
Title要素	「〇〇県気象防災速報（記録的短時間大雨）」	
EventID要素		一連の情報に対して一意のIDを発行し、個々の情報に対して枝番を付記する。
Headline部		
Text要素	見出し文と地域情報の関係：あり	対象となる「二次細分区域等」は観測された雨量計の所在地又は解析された地域が観測データ形式で取得可能
	見出し文と観測情報の関係：あり	観測・解析した日時、観測地点又は地域、雨量が観測データ形式で取得可能
	その他	上記に加えて簡潔な解説を付与。
Information@type="情報タグ"の構成		
Kind要素	Name: "情報タグ", Condition: "記録雨"	気象防災速報で情報タグが"記録雨"の場合、記録的短時間大雨情報であることを示す
Areas要素	Areaを示すコード値：「一次細分区域等」	気象解説情報形式_解説資料_別表3に従い「一次細分区域等」コードに固定
	地域の絞り込み：行う	本情報では対象となる「一次細分区域等」への絞り込み発表を行う
Body部（観測データ形式）		
MeteorologicalInfos@type="観測実況"の構成		
解説		見出し文に記載内容のうち、記録的短時間大雨を観測・解析した日時、観測地点又は地域、雨量を記載する。雨量計による観測値を示す形式1と、解析雨量による解析値を示す形式2のいずれか又は両方で構成される。観測値・解析値は複数含まれる場合があり、同一情報内で複数の観測日時が含まれる場合もある。原則として観測日時順、雨量の多い順となる。
形式1		雨量計により観測された実況値を提供する
Kind要素	Type: "雨の実況"	「雨の実況」を示す
	jmx_eb:Precipitation	本情報で観測された雨量の観測値を示す
	@type:"前1時間降水量"	雨量計による観測の場合「前1時間降水量」を用いて、観測日時の前1時間降水量を示す。
	Time	観測された日時
Station要素		雨量計による観測ではStationのみを用いる
	Name	観測所の名称
	Code	観測所の地点コード
	@type:"アメダス地点番号","他機関観測地点番号"	前項の地点コードのコード種別を示す。「アメダス地点番号」「他機関観測地点番号」をとる。
Location		観測所の都道府県名
形式2		レーダーにより観測された解析値を提供する
Kind要素	Type: "雨の実況"	「雨の実況」を示す
	jmx_eb:Precipitation	本情報で観測された雨量の解析値を示す
	@type:"前1時間解析雨量"	レーダーによる観測の場合「前1時間解析雨量」を用いて、観測日時の前1時間の解析雨量を示す。
	@condition:"約","以上"	解析値に幅があることを示し、通常は「約」を、120ミリを超える場合は「以上」で示す（いずれかを必ず記載）
Time		観測された日時
Area要素		レーダーによる観測ではAreaのみを用いる
	Name	解析された「二次細分区域等」の名称
	Code	「二次細分区域等」のコード
	@type:"気象・地震・火山情報/市町村等"	前項の地域コードのコード種別を示す。「気象・地震・火山情報/市町村等」をとり、「二次細分区域等」コードであることを示す。
Status:"付近"		解析された値が「二次細分区域等」に対して「付近」であることを示す（固定値）

※「二次細分区域等」はArealInformationCityコード表を、「府県予報区等」「一次細分区域等」「市町村等をまとめた地域等」はAreaForecastLocalM関係表の同名の列値を示す

線状降水帯発生（現：顕著な大雨に関する気象情報）

要素名等	子要素・属性・とりうる値等	解説
Head部		
Title要素	「〇〇県気象防災速報（線状降水帯発生）」	
EventID要素		一連の情報に対して一意のIDを発行し、個々の情報に対して枝番を付記する。一意のIDは、線状降水帯発生と線状降水帯直前予測で共用せず、それぞれ独立したIDとする。
Headline部		
Text要素	見出し文と地域情報の関係：あり	対象となる一次細分区分は情報タグの地域要素及び観測データ形式で取得可能
	見出し文と観測情報の関係：あり	解析した日時、対象「一次細分区分等」が観測データ形式で取得可能
	その他	上記に加えて簡潔な解説を付与。
Information@type="情報タグ"の構成		
Kind要素	Name: "情報タグ", Condition: "線状降水帯発生"	気象防災速報で情報タグが"線状降水帯発生"の場合、顕著な大雨に関する情報（発生）であることを示す
Areas要素	Areaを示すコード値：「一次細分区分等」	気象解説情報形式_解説資料 別表3に従い「一次細分区分等」コードに固定
	地域の絞り込み：行う	本情報では対象となる「一次細分区分等」への絞り込み発表を行う
Body部（観測データ形式）		
MeteorologicalInfos@type="観測実況"の構成		
解説		見出し文に記載内容のうち、線状降水帯の発生を解析（30分以内の発生予想を含む。以下同じ。）した「一次細分区分等」と同解析時刻を記載する。
形式 1		線状降水帯の発生に係る現象と日時を提供する
Kind要素	Type: "気象現象の実況"	「気象現象の実況」を示す
	Event	本情報が示す気象現象の種別等実況情報を示す
	@type: "線状降水帯"	線状降水帯の発生や予測に係る情報については、「線状降水帯」のみを用いる
	EventName: "線状降水帯発生"	線状降水帯の発生の場合には要素値「線状降水帯発生」を用いて、同現象を示す。
Area要素	Time	解析日時（発生予想の場合でも初期値となる解析日時）
		本情報ではAreaのみを用いる（Stationは用いない）
	Name	解析された「一次細分区分等」の名称
	Code	「一次細分区分等」のコード
	@type: "気象情報／府県予報区・細分区分等"	前項の地域コードのコード種別を示す。「気象情報／府県予報区・細分区分等」をとり、「一次細分区分等」コードであることを示す。

※ 「二次細分区分等」はAreaInformationCityコード表を、「府県予報区等」「一次細分区分等」「市町村等をまとめた地域等」はAreaForecastLocalIM関係表の同名の列値を示す

線状降水帯直前予測

要素名等	子要素・属性・とりうる値等	解説
Head部		
Title要素	「〇〇県気象防災速報（線状降水帯直前予測）」	
EventID要素		一連の情報に対して一意のIDを発行し、個々の情報に対して枝番を付記する。一意のIDは、線状降水帯発生と線状降水帯直前予測で共用せず、それぞれ独立したIDとする。
Headline部		
Text要素	見出し文と地域情報の関係：あり	対象となる「一次細分区域等」は情報タグの地域要素及び観測データ形式で取得可能
	見出し文と観測情報の関係：あり	直前予測を解析した日時、対象「一次細分区域等」が観測データ形式で取得可能
	その他	上記に加えて簡潔な解説を付与。
Information@type="情報タグ" の構成		
Kind要素	Name: "情報タグ", Condition: "線状降水帯直前"	気象防災速報で情報タグが"線状降水帯直前"の場合、顕著な大雨に関する情報（直前予測）であることを示す
Areas要素	Areaを示すコード値：「一次細分区域等」	気象解説情報形式_解説資料 別表3に従い「一次細分区域等」コードに固定
	地域の絞り込み：行う	本情報では対象となる「一次細分区域等」への絞り込み発表を行う
Body部（観測データ形式）		
MeteorologicalInfos@type="観測実況" の構成		
解説		見出し文に記載内容のうち、線状降水帯の発生の直前予測（今後3時間以内の発生の予測）をした「一次細分区域等」と同予測の解析時刻を記載する。過去の解析内容を継続して呼びかける場合は、Time要素値を同解析時刻とする。
形式 1		線状降水帯の直前予測に係る現象と日時を提供する
Kind要素	Type: "気象現象の実況"	「気象現象の実況」を示す
	Event	本情報が示す気象現象の種別等実況情報を示す
	@type:"線状降水帯"	線状降水帯の発生や予測に係る情報については、「線状降水帯」のみを用いる
	EventName: "線状降水帯予想"	線状降水帯の発生直前予測の場合には要素値「線状降水帯予想」を用いて、同現象を示す。
Area要素	Time	解析日時（予測の場合でも初期値となる解析日時）
		本情報ではAreaのみを用いる（Stationは用いない）
	Name	解析された「一次細分区域等」の名称
	Code	「一次細分区域等」のコード
	@type:"気象情報／府県予報区・細分区域等"	前項の地域コードのコード種別を示す。「気象情報／府県予報区・細分区域等」をとり、「一次細分区域等」コードであることを示す。

※「二次細分区域等」はAreaInformationCityコード表を、「府県予報区等」「一次細分区域等」「市町村等をまとめた地域等」はAreaForecastLocalM関係表の同名の列値を示す

顕著な大雪に関する情報

要素名等	子要素・属性・とりうる値等	解説
Head部		
Title要素	「〇〇県気象防災速報（短時間大雪）」	
EventID要素		一連の情報に対して一意のIDを発行し、個々の情報に対して枝番を付記する。
Headline部		
Text要素	見出し文と地域情報の関係：一部	対象となる地域を含む「一次細分区域等」を情報タグの地域要素で取得可能
	見出し文と観測情報の関係：あり	観測した日時、観測地点、降雪量が観測データ形式で取得可能
	その他	上記のほか、今後の降雪の見通しと対象地域を解説として付与
Information@type="情報タグ" の構成		
Kind要素	Name: "情報タグ", Condition: "短時間大雪"	気象防災速報で情報タグが"短時間大雪"の場合、顕著な大雪に関する情報であることを示す
Areas要素	Areaを示すコード値：「一次細分区域等」	気象解説情報形式_解説資料 別表3に従い「一次細分区域等」コードに固定
	地域の絞り込み：行う	本情報では対象となる「一次細分区域等」への絞り込み発表を行う
Body部（観測データ形式）		
MeteorologicalInfos@type="観測実況" の構成		
解説		見出し文の記載内容のうち、降雪の観測状況（日時・地点・降雪量）を記載する。
形式 1		降雪量に係る実況値を提供する
Kind要素	Type: "雪の実況"	「雪の実況」を示す
	jmx_eb:SnowfallDepth	本情報の根拠となる降雪量の観測値を示す
	@type:" 3 時間の降雪深さ", " 6 時間の降雪深さ"	観測値の種別に応じて「3 時間の降雪深さ」「6 時間の降雪深さ」を用いて、それぞれ観測日時からの3 時間又は6 時間降雪量を示す
	Time	観測された日時
Station要素	本情報ではStationのみを用いる（Areaは用いない）	
	Name	観測所の名称
	Code	観測所の地点コード
	@type:"アメダス地点番号","他機関観測地点番号"	前項の地点コードのコード種別を示す。「アメダス地点番号」「他機関観測地点番号」をとる。
	Location	観測所の都道府県名

※「二次細分区域等」はAreaInformationCityコード表を、「府県予報区等」「一次細分区域等」「市町村等をまとめた地域等」はAreaForecastLocalIM関係表の同名の列値を示す